



## 山根良信前副会長が 旭日双光章を受章



当協会の山根前副会長（三興工業株式会社代表取締役会長）が令和6年秋の叙勲において、建設業振興功勞により、旭日双光章を受章されました。

栄えある旭日双光章を受章を祝し、謹んでお慶びを申し上げます。

山根前副会長は、昭和22年3月生まれで、足利市在住であります。昭和45年2月、三興工業株式会社の取締役役に就任し、何事にも真摯に取り組み、多数の工事現場を経験し優れた実績を残されました。

昭和50年4月に同社の代表取締役社長に就任以降も、平成22年10月栃木労働局長表彰、28年7月には建設事業関係功勞者として栃木県知事表彰、令和元年7月に国土交通大臣表彰などを多数受賞されました。

平成30年9月には代表取締役会長となられ、引き続き社の発展のため後進の指導にあたり現在に至っています。

本会では、平成22年に当会常任理事に就任され、平成30年からは常任理事兼副会長として、令和2年からは副会長、更には栃木県土木施工管理技士会会長として、土木技術者の技術力・社会的地位の向上を目的に、関係機関等と意見交換を重ねる等、昨年5月までの長きに渡り建設業界及び地域社会の発展に尽力されました。

今後はお体を大切になされまして、後進へのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願いいたします。

## ユニフォームをリニューアル!!



昨年栃木県建設業協会では、創立100年を迎えさまざまな記念事業を行ってきました。その事業の一環として、新ロゴマーク付き作業着・ビブスをリニューアルいたしました。ユニフォームは新ロゴマーク「TXC」の「新しい時代に対応していくために郷土や伝統を大切にしながら、私たち自身を変えていく・超えていく」をコンセプトに背中に大きく表したデザインになっております。カラーは作業服全体を落ち着いた色味のネイビーとし、ロゴマーク部分を目立たせるべく背景を白にしました。



素材は特殊構造のストレッチ加工糸を使用した肌に優しい裏綿素材、制電裏綿ストレッチツイルで作成され快適な着心地です。このユニフォームは台風や豪雨、地震等の自然災害発生時における緊急対応や応急・復旧活動時、「愛りバー」「愛ロード」などの社会貢献活動で利用いただくことを目的としております。



（業務部 篠崎有里）



## 第3回「建 FES GO！」が開催されました

栃木県建設業協会青年経営者連合会は、令和6年10月19日に3回目となる建設業体験型イベント「建 FES GO！」を宇都宮市道場宿緑地公園にて開催いたしました。

本イベントの目的は、喫緊の課題である担い手確保の観点から、未来を担う子供たちに建設の仕事体験を通して建設業の楽しさやかっこよさ、対価をもらう喜びを体感してもらうことと、最先端の技術や機械を見たり触れたりしていただき、建設業界のイメージアップを図ることを目的として今年度も実施させていただきました。

今年度も親会をはじめ、国土交通省下館河川事務所様、栃木県様、とちぎ建設技術センター様、CCIとちぎ様、各メーカー企業様から多大なるご支援・ご協力をいただきました。さらには今年から県内の工業高校6校にも参加していただき、前回よりも魅力あるイベントが開催できたことに、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

当日は、会場を3つのエリア(体験して楽しい・触れて学べて楽しい・見て楽しい)に分けて約5,000名の方に来場していただき、職業体験のほか、親子参加型のイベントステージや、大道芸・バルーンアート、展示ブース等で楽しんでいただき、多くのお子さんたちの笑顔を見ることができました。この笑顔がイベント成功を物語っていると思います。

また、来場者へのアンケートでは、建設業へのイメージは？という質問に約9割以上の方に「良い印象」、「良い印象が変わった」と回答いただき、イベントを継続して開催してほしいという回答も9割以上の方からいただきました。

このような結果を振り返りますと、継続してイメージアップを図っていくことが未来の担い手確保につながるのではないかと強く感じることができました。

また、3回目ではありますが業界の若手が総力を挙げて取り組んだことで、会員相互の一体感をより一層増すことができたとも思います。

このイベントを通じて、多くの親御さんや子供たちから建設業に対する理解が得られるとともに、一人でも多くの子供たちに建設業界を目指していただけることを願っております。



(青経連社会貢献活動推進委員長 株谷黒組 谷黒宗重)



## 子どもたちと建設機械とのふれあい ～宇都宮城址まつりで搭乗ブース～

【宇都宮支部】



宇都宮建設業青年の会（津野田哲会長）は令和6年10月20日に宇都宮城址公園で開催された宇都宮城址まつり（よみがえれ！宇都宮城）に、子どもたちと建設機械のふれあいを目的とした搭乗ブースを出展しました。ブースでは約200名の子どもたちがバックホウ、ミニショベル、コンバインドローラーに実際に乗り込み、建設機械の運転を体験しました。参加した子どもたちは、笑顔で運転したり、驚嘆の声をあげたりと大変好評で、複数回体験を繰り返す方もいらっしゃいました。また、自作のYouTubeの動画画面やInstagramの投稿画面を模したパネルで記念写真を撮るお子さんもたくさん見受けられました。



宇都宮建設業青年の会の津野田会長は「子どもたちが建設機械にふれあうことで、建設業に興味を持ってもらえるきっかけになれば幸い」と、このイベントが将来の建設技術者の確保につながることに期待を寄せていました。

（岩原産業㈱ 岩原正樹）

## 愛ロードとちぎを実施

【鹿沼支部】



令和6年10月11日、栃木県建設業協会鹿沼支部員にて愛ロードとちぎ・クリーンアップ作戦を行いました。今回の愛ロードは往復約3.0kmを2班に分かれて作業を行いました。鹿沼市では10月12日、13日と秋祭りが開催されるため、今回のクリーンアップ作戦は、秋祭りへ参加する市民のみなさんや一般観光客の方々に安全に楽しんでいただけるように、また鹿沼に良いイメージを持っていただけるように清掃活動、安全点検を行いました。特に、鹿沼秋まつりは国の重要無形民俗文化財に指定されている「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」として、平成28年11月30日にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」への登録が行われたことで、近年ではさらなる盛り上がりを見せています。また今回、鹿沼支部では広報委員会にて、のぼり旗を作成したため、「以前のクリーンアップ作戦に比べ、通行車の方々からの注目度が高まっている感じがする」という声が多くなりました。



（五月女建設㈱ 五月女紀士）



## とちぎ子どもの未来創造大学

『災害発生!その時、建設業は…?!』～指令室から災害現場へ～

【日光支部】



バックホウで流木撤去

令和6年10月5日、旧日光市立野口小学校にて『災害発生!その時、建設業は…?!』～指令室から災害現場へ～を開催しました。

当日は悪天候だったこともあり、当初参加予定は19名でしたが、日光市を中心に小学校4年生～中学校3年生までの13名の参加で実施することができました。前半は座学にて建設業とは何かを、水害や雪害など日光市において身近に存在する災害を題材に用いて理解を深め学んでいただきました。後半の重機搭乗体験等では、ドローンを操作していち早く災害箇所の確認作業を行う。災害発生箇所に入り、実際にバックホウにて流出した木を除去する。



建設業とは?



ドローンで体験



高所作業車で目視確認

また、高所作業車に乗って被災建物などの外観確認を行うなどの実体験をしていただきました。

真剣に座学を受け、質問も多く出ており最後まで非常に活気のある事業となりました。

日光支部では今後も担い手確保につながる事業を継続していこうという機運を高める良い機会となり、県関係者の皆さまには心より感謝申し上げます。

(株)山田組 山田 孝

## 「旧芳賀建設会館」を使った消防・救助訓練

【芳賀支部】



芳賀支部は、「地域の安全・安心を守る」との理念に基づき、新会館建設に伴い取り壊される「旧芳賀建設会館」を、芳賀地区消防本部が実施する「実際の建物での火災及び震災対応訓練」に提供しました。

芳賀郡1市4町の消防・救助隊約50名が参加する大規模な訓練で、8月11、12、17、18日の4日間、煙を建物内に充満させた中での消火活動、建物外部からの捜索活動、狭い空間からの救出活動など、普段とは違うより実際の災害・火災現場に近い臨場感あふれる実践的訓練が行われました。



参加した隊員からは、「実際の建物を使用した訓練は、なかなかできるもの

ではなく、非常に貴重な経験となった」との感謝の声をいただきました。

今回の訓練による隊員の技術力向上は、地域住民の安全・安心にもつながり、会館の提供により「地域の守り手」としての芳賀支部の役割を十分に果たすことができました。

こうして、「旧芳賀建設会館」は最期まで地域の防災力向上に貢献し、47年間の幕を閉じました。長い間、大変お世話になりました。

(大関建設(株) 大関好男)



## Topics

### 小山北桜高、栃木農業高に出前講座 ～建設業の魅力を発信～

【下都賀支部】



小山北桜高校建築システム科

令和6年11月5日および11月19日、下都賀支部建友会にて若年者建設業担い手育成支援事業（高校出前講座）を行いました。対象になった高校は小山北桜高校建築システム科と栃木農業高校環境デザイン科の1・2年生の生徒で、建友会会員が講師を務めました。



小山北桜高



栃農高



栃農高

建設業がものを作るだけでなく災害対応などで社会貢献していること、現場監督が行っている業務内容、今現在、建設業界が取り組んでいる内容（女性活躍、ICTやBIM等の活用）をスライド映像や動画を活用しながら分かりやすく解説しました。その後、複数の班に分かれ座談会を行いました。

生徒からの給料・休暇等の具体的内容や講座内容、その他様々な疑問・質問に会員が回答する形式で進行し、盛り上がりを見せていました。短時間でしたが今回の出前講座を通じて建設業に対する楽しさや魅力が伝わり、今後の職業選択に活かしていただければ幸いです。

（有）藤沼建設 藤沼大輔

### 「建設機械搭乗体験」 総合学習支援活動

【塩谷支部】



塩谷支部建青会 高根沢町立中央小学校

晴天に恵まれた令和6年12月3日、塩谷支部建青会は高根沢地区初の総合学習支援活動を高根沢町立中央小学校において実施しました。会員企業から30人が参加し、全校児童138人を対象に重機・高所作業車の操作や搭乗体験などを行いました。

会員による指導・保護の下、バックホウ、タイヤローラー、高所作業車による搭乗体験を行い、ミニバックホウでは砂場で砂を取る操作を体験してもらい、振動ローラーでは「建 FES GO!」でも実施した缶つぶしを体験してもらいました。3台のドローン操作撮影にも興味津々でした。



高所作業車での搭乗体験

普段は触れることのできない建設機械に触られ、子供たちも楽しく学んでいました。建設業は皆さんが生活す

るために必要なものや便利な暮らしができるものをつくる仕事だと児童に説明しました。

総合学習支援活動を通じて建設業の役割、魅力、建設機械への興味を少しでも感じてもらい、将来建設業の仕事と一緒にやってみたいと思ってくれることを願っています。

（友建工業(株) 小菅秀樹）



## とちぎ子どもの未来創造大学

【那須支部】



ICT 建機操作

令和6年10月26日に県建設会館にて「とちぎ子どもの未来創造大学」を開催しました。

昨年に続いての開催となり、小中学生12名の子どもたちが「ミニコンクリート製品づくり」「ICT建機操作」「ドローン操縦」を体験しました。この体験を通して建設業の役割と魅力を発信し、担い手を確保することを目的としております。



ミニコンクリート製品づくり



ドローン操作

「ミニコンクリート製品づくり」では練り混ぜに悪戦苦闘をしながらも会員の補助を受けながら、型枠に流し込むことができました。また、会場を移しての「ICT建機操作」「ドローン操縦」体験では、当初は戸惑いがありましたが、徐々に操作に慣れてもっと時間がほしいとの声もあり、一連の体験を通じて建設業の魅力を発信できたと感じております。

開催に当たり県関係機関、協会本部、また広報委員会、総務企画委員会委員の皆様並びに建設機械をご提供いただきました企業様にあらためまして感謝申し上げます。

(株)館林工業 館林貴之

## 令和6年度 合同情報伝達訓練

【烏山支部】



ドローンによる現地確認 一級河川荒川 那須烏山市高瀬

令和6年6月5日に「大規模災害時における公共土木施設の復旧体制に関する連携会議」に係る合同情報伝達訓練が、栃木県庁と関係機関によりリモート形式で実施されました。

那須烏山市を震源とし、震度7の地震発生による3ケースの災害事象を想定、①橋梁段差発生による通行規制実施に関する伝達訓練、②河道埋塞の発生における河道確保に関する伝達訓練、③斜面崩壊の発生による要配慮者利用施設の孤立解消に関する伝達訓練、以上3ケースが同時進行的に実施されました。



烏山支部では①②において、関係機関との情報伝達のやり取りを実施、特に②の河道埋塞の発生箇所では、一級河川荒川の状況確認のためドローンによる上空からのリアルタイムでの現地撮影、Teamsによる映像配信・情報共有をスムーズに行うことができました。

Web方式による、国土交通省、防衛省、栃木県の関係機関との訓練は、災害発生時に重要となる情報の共有、日常業務におけるDX化・デジタル化の必要性を再認識する機会となりました。

(株)荒川建設 中山靖之



## 総合学習支援活動

【安蘇支部】



バックホウ操作体験

安蘇支部では佐野市立多田小学校の児童を対象に、建設業の魅力を伝える総合学習支援活動を実施しました。活動内容は、紙芝居「台風が来るぞ」の読み聞かせ、バックホウ体験、高所作業車体験の3つです。

まず、紙芝居を通じて災害時において建設業者がどのような活動を行うか学んでいただきました。分かりやすく建設業の役割を伝えることができたと思います。次にバックホウ体験では実際に機械を操作し、建設現場での力強い作業を体感してもらいました。子どもたちは機械の操作に興味津々で参加して



高所作業車乗車体験

くれました。高所作業車体験では、普段は見ることができない自分たちの街みを空中から見ることができ、嬉々としていました。子どもたちは普段は見ることのできない視点から新たな発見をし、建設業に対する理解が深まったことと思います。これらの体験を通じて子どもたちは建設業に興味を持ち、未来の職業選択の幅が広がったことと思います。

(岡田土建(株) 石澤洋幸)

## ありがとう中橋！

【足利支部】



建設から88年にわたり足利市の発展を支えてきた中橋に感謝を伝えるイベント「ありがとう中橋！～いよいよ生まれ変わる中橋～」が令和6年10月14日、国・県・市の主催で開催され、足利支部も共催団体として参加しました。



当日は、親子連れをはじめ約4千名もの方々が集まり、中橋の路面に感謝の言葉を描くお絵描き用のチョークが開始30分で足りなくなるほどの賑わいを見せました。我々も高所作業車やミニバックホウの搭乗体験を行い、特に、地上15メートルから中橋の三連アーチを見下ろす高所作業車では、最大3時間待ちの行列ができるほどの大人気で、我々にとっても、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回のイベントを通して、改めて中橋がたくさんの方に愛されていることを実感するとともに、我々も微力ながら、この中橋の架け替え事業にできる限りの貢献をしていきたいと考えたところです。

(三興工業(株) 山根良樹)